

環境経営レポート

2022年

(2022年1月1日～2022年12月31日)

株式会社 北海道アルバイト情報社

1. 事業所名及び代表者氏名

会社名 株式会社 北海道アルバイト情報社

代表者名 代表取締役 村井 俊朗

2. 所在地 (認証範囲における事業所名とその住所)

本社	〒060-8647	北海道札幌市中央区南2条西6丁目13-1
ジョブキタビル	〒060-0061	北海道札幌市中央区南1条西6丁目20-1
北支社	〒065-8585	北海道札幌市東区北31条東1丁目3-21
南支社	〒003-0023	北海道札幌市白石区南郷通16丁目北2-1
印刷製本工場	〒063-0835	北海道札幌市西区発寒15条12丁目4-20
旭川営業所	〒070-0024	北海道旭川市東4条2丁目4-22
函館営業所	〒041-0811	北海道函館市富岡町3丁目23-5 北斗ビル
帯広営業所	〒080-0057	北海道帯広市柏林台中町2丁目2-3 シャム壺番館
釧路営業所	〒085-0015	北海道釧路市北大通10丁目2-1 新釧路道銀ビル
苫小牧営業所	〒053-0022	北海道苫小牧市表町3丁目2-13 王子不動産第Ⅱビル
恵庭営業所	〒061-1448	北海道恵庭市相生町1丁目8-1 いざりえ恵庭ビル
北見営業所	〒090-0024	北海道北見市北4条東1丁目11-12 双進ビル
小樽営業所	〒047-0032	北海道小樽市稲穂2丁目11-13 協和稲穂ビル
室蘭営業所	〒050-0074	北海道室蘭市中島町1丁目23-18 YSプラザビル
岩見沢営業所	〒068-0024	北海道岩見沢市4条西8丁目1番地 ヤマシチ4・8ビル
江別営業所	〒069-0813	北海道江別市野幌町29-12 野幌メディカルビル5F
(株) HAJ マネジメント		
	〒060-0062	北海道札幌市中央区南2条西6丁目13-1
(株) スパイラル		
	〒060-0062	北海道札幌市中央区南2条西6丁目13-1

3. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 常務取締役 樺澤 靖史

事務局担当者 総務部部長 吉田 民夫 TEL 011-223-3700

4. 事業内容の概要(認証範囲における業務範囲)

(株) 北海道アルバイト情報社

- 求人情報誌ならびにWEB媒体の編集・発行、求人計画の立案及び実施
- 各種就職セミナーの企画、キャリアカウンセリング等の実施
- 当社WEB求人サイトの管理・運営
- WEB・モバイルコンテンツの商品企画・開発
- 商品企画・開発、書籍・DVDの企画・出版
- テレビ・ラジオ番組の企画・制作 ○各種出版物の印刷・製本
- 一般労働者派遣業及び有料職業紹介事業

(株) HAJ マネジメント

- 不動産の所有及び管理

(株) スパイラル

- ホームページ、モバイルコンテンツ等の企画・製作

5. 事業の規模(主要製品の生産量・出荷額、従業員数、事業所の延べ床面積等)

(株) 北海道アルバイト情報社 (株) HAJ マネジメント

(株) スパイラル

活動規模	単位	2022年
売上高	百万円	4,730百万円
従業員	人	289人
床面積	m ²	13,371.69m ²

6. 環境活動レポートの対象期間と発行日

対象活動期間 2022年1月1日～2022年12月31日

発行日 2023年4月28日

7. 環境経営方針

【環境理念】

環境問題の深刻化は人類全体の課題であり、企業もその役割を自覚しつつ行動して行かねばなりません。株式会社北海道アルバイト情報社は、求人事業等を通して地域社会に貢献し続けるため、可能な限り環境に配慮した事業活動を行い、環境経営の継続的改善につとめ、環境及び地域社会と共生する、持続可能な経営を目指します。

【環境方針】

- 1、事業活動による環境負荷の低減を図ります。
- 2、グリーン購入を推進します。
- 3、森林資源の利用にあたっては、循環型の利用に努めます。
- 4、事業活動に関わる環境関連法規則等を遵守します。

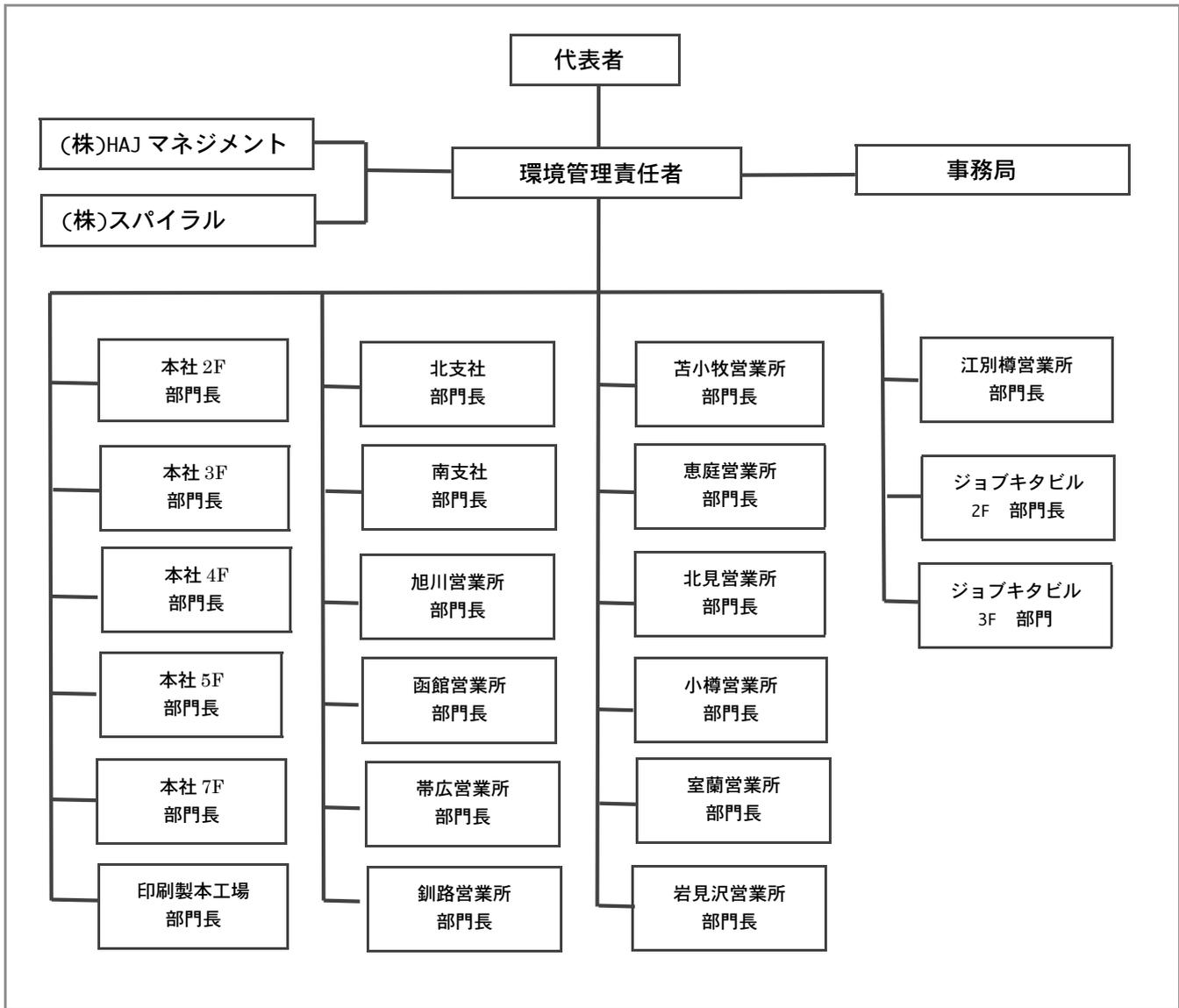
2011年1月17日

2020年9月14日

株式会社 北海道アルバイト情報社

代表取締役 村井 俊朗

8、実施体制・役割、責任及び権限



構成要素	役割、責任及び権限
代表者	≪村井社長≫会社を代表し、会社業務の全ての執行を統括する 1. EA 2 1 環境マネジメントシステムの実施及び管理に不可欠な資源の提供、資源には、人的資源及び専門的な技能、技術並びに資金を含む 2. 環境方針の作成 3. 環境管理責任者の任命 4. 全体の評価と見直しの実施
環境管理責任者 (MR)	≪樺澤常務≫ 1. EA21 に従った環境マネジメントシステムの要求事項の確立、実施、維持 2. 代表者（社長）への実績報告を含む見直しのための報告 3. EA 2 1 環境マネジメントシステムの運用実施 4. 環境活動レポートの作成責任
事務局	1. 環境管理責任者のサポート 2. 環境管理責任者の指示による文書・記録の作成 3. 文書・記録の管理
各部門長	1. EA21 環境マネジメントシステムの運用実施 2. 環境管理責任者の指示による文書・記録の作成

9. 環境目標（3年中期目標を含む）とその実績

北海道電力の二酸化炭素排出係数(0.549kg-CO2/kWh)

※ 2021年度CO2排出実績に基づく、2023年1月24日発表の基礎排出係数を使用

2022年 二酸化炭素排出量 1,455,853.596Kg-CO2

(2022年のグリーン電力とオフセットクレジット分△116,853kg=1,339,000.596kg-CO2)

(2021年 二酸化炭素排出量 1,480,308.473Kg-CO2 使用係数0.601kg-CO2/kWh)

①今年度の目標とその実績（毎年前年を基準）

環境目標項目	環境目標	実績
電気使用量の削減	運用手順の徹底	1,740,308kwh(4.37%増)
灯油使用量の削減	日常管理の実施	75,712ℓ(22.09%増)
重油A使用量の削減	日常管理の実施	25,100ℓ(2.33%減)
ガス使用量の削減	日常管理の実施	29,915m ³ (13.13%増)
ガソリン使用量の削減	運用手順の徹底	38,096ℓ(6.72%減)
水の使用量の削減	日常管理の実施	3,298m ³ (5.60%減)
一般廃棄物排出量の削減	運用手順の徹底	9.432t(0.69%増)
紙使用量の削減（購入量）	運用手順の徹底	コピー用紙 605,000枚(15.32%減)
化学物質使用量の削減	維持管理	対応済み
グリーン購入の推進	維持管理	事務用品100%

②中期環境目標（毎年前年を基準）

環境目標項目	2023年度環境目標	2024年度環境目標	2025年度環境目標
電気使用量の削減	運用手順の徹底	運用手順の徹底	運用手順の徹底
灯油使用量の削減	運用手順の徹底	運用手順の徹底	運用手順の徹底
重油A使用量の削減	運用手順の徹底	運用手順の徹底	運用手順の徹底
ガス使用量の削減	運用手順の徹底	運用手順の徹底	運用手順の徹底
ガソリン使用量の削減	運用手順の徹底	運用手順の徹底	運用手順の徹底
水の使用量の削減	運用手順の徹底	運用手順の徹底	運用手順の徹底
一般廃棄物排出量の削減	運用手順の徹底	運用手順の徹底	運用手順の徹底
紙使用量の削減	運用手順の徹底	運用手順の徹底	運用手順の徹底
化学物質使用量の削減	維持管理	維持管理	維持管理
グリーン購入の推進	維持管理	維持管理	維持管理

10. 主要な環境活動計画（環境への取組）の内容

(1)環境目標を達成するための行動内容

○二酸化炭素排出量の削減

環境目標	取組内容	実施詳細	
電力使用量	照明の節電	照明	トイレは使用しないときは消す
			フロアの各所・共有スペース・会議室なども使用しない時は消す
			〈本社〉廊下については、エレベーターホールを除く給湯室側については使用しないときは消灯
			照明（蛍光管等）を外せる所を検討
	電化製品の節電	プリンター	休日前日の退出時に電源をOFF。3連休・GW・正月などの長期休暇の際にも必ずOFFにする
		コピー機	退社時には必ず電源を切る

環境目標	取組内容	実施詳細			
電力使用量	電化製品の節電	エアコン	リモコンの温度設定を、夏26℃・冬24℃に設定する 温度計を貼る 冬、エアコンは退社時にタイマー設定をする 冬、フロアの温度計が24℃を超えたら、エアコンを切る		
		エレベーター	3フロア以上の移動時に使用する		
		パソコン	1時間以上席を外す時はパソコンの電源を切る		
		トイレ便座・フタ	便座の通電温度を低くする 使用したらフタを閉める		
		トイレ暖房	最終退社時にスイッチを消す		
		ポット	最終退社時に電源を抜く		
		加湿器	最終退社時に電源を切る		
		LPガス	適切な使用	ロードヒーティング	効率の良い設定
			効率的な稼働	印刷機械	スパンを開けない効率的な稼働
都市ガス	適切な使用	旭川ロードヒーティング	効率の良い設定		
		旭川エアコン	リモコンの温度設定を、夏26℃・冬24℃に設定する 温度計を貼る 冬、エアコンは退社時にタイマー設定をする 冬、フロアの温度計が24℃を超えたら、エアコンを切る		
灯油	適切な使用	ロードヒーティング	効率の良い設定		
		工場1階暖房	1階工場部分の使用場所制限		
		釧路暖房	冬24℃設定		
ガソリン	省エネ運動	エコドライブ	ふんわりアクセル、やさしい発進 急加速・急操作の少ない運転 早めのアクセルOFF、エンジンブレーキを積極的に使おう エンジンをかけたらすぐ出発（長い時間アイドリングしない） 駐停車時のアイドリングを避ける ガソリンはできるだけ満タンにしない 不要な荷物は積まない。 信号が青に変わったら一呼吸待ってふんわりとアクセルを踏み込み発進する		

○水使用（排出）量の削減

環境目標	取組内容	実施詳細	
排出量	節水・適切な使用	トイレ・給湯室	水はだしっぱなしにしない

○一般廃棄物・産業廃棄物排出量の削減

環境目標	取組内容	実施詳細	
事業系一般廃棄物・産業廃棄物	一般・産業廃棄物の削減	ゴミの分別	ゴミ分別のプランに沿って実施する

○コピー用紙の使用量の削減

環境目標	取組内容	実施詳細	
コピー用紙使用量	資源の保全	プリンタ	プリントルールを作り、わかるように広報
		コピー機	プリントルールを作り、わかるように広報 用紙設定、サイズ設定、枚数、カラー設定 最後にコピー機の設定をリセットすることを忘れずに 各階毎、営業所毎に使用枚数を掲示する 使用済みの用紙の破棄・再利用ルールを再度徹底。フローチャートなどを作り 判断基準を明確にする

○化学物質使用量の削減

環境目標	取組内容	実施詳細	
印刷用溶剤使用量	溶剤の変更	印刷機器に使用	可能な限り環境配慮型の溶剤へ変更する

○グリーン購入の推進

環境目標	取組内容	実施詳細	
環境配慮商品使用	維持推進		直接部署単位での購入の際はグリーン購入

1.1. その他の環境活動 (例年の活動報告)

(1) 北海道の再生可能エネルギーを活用しています。

求人誌などを印刷・製本する発寒工場の使用電力として、室蘭市の祝津風力発電所で発電された電力100,000kWhを、「グリーン電力証書」で購入しています。

この活動により、年間約54,900kgのCO2排出削減に寄与します。

※排出削減量の計算にあたっては、北海道電力排出係数である0.549kg-CO2/kWhを使用しています。

2021年度CO2排出実績に基づく、2023年1月24日発表の基礎排出係数を使用

(2) 北海道の木材（間伐材）を利用する、「木づかい運動」を推進しています。

北海道の健全な森づくりのために、北海道の木材（間伐材）を積極的に活用しています。2008年度から2017年度の10年間は、空知管内の間伐材を印刷用紙の原料として利用しました。

2018年度からの活動としては、下川町で製造される白樺間伐材の割り箸を全社員・スタッフに提供し、昼食時などに利用しています。また飲食が絡むイベント等への割り箸の提供、ノベルティとしての割り箸配布なども随時行っています。

また2013年より新十津川町の社有林にて、健全な森づくりを実践する山林経営を行っています。

(3) 北海道のオフセット・クレジットを利用しています。

2010年より北海道内の森林整備によるオフセット・クレジットを利用して、排出CO2の一部をオフセットしています。

2022年は CO2 約61,953kg分を、以下の9プロジェクトのオフセットクレジットでオフセットしました。

- ・ 士幌町有林間伐促進による森林づくりプロジェクト
- ・ 上士幌町有林間伐促進プロジェクト（次世代に引継ぐ豊かな森づくりプロジェクト）
- ・ 石狩市市有林間伐促進型プロジェクト～ニシンが群来る豊かな海を未来に繋ぐ森づくり～
- ・ 紋別市有林間伐促進型森づくり事業
- ・ 南ふらの町有林の間伐促進によるCO2吸収量促進事業
- ・ 北海道浦河町有林間伐促進吸収プロジェクト～優駿を育む森づくり～
- ・ 北海道津別町による町有林内における間伐推進を図りながらの森林CO2吸収促進事業
- ・ 北海道広尾町有林における森林吸収プロジェクト ～サンタの森づくりプロジェクト～
- ・ 中標津町地域のくらしを守る格子状防風林における間伐促進プロジェクト
～持続可能な循環型社会、環境首都なかしべつを目指して～

(4) 生物多様性の保全への取組を行っています。

上記新十津川町の社有林について、3年にわたり専門家による動植物の調査を行いました。その結果をベースとして継続して生物多様性保全の意味を学ぶ場として活用しています。

(5) FSC認証紙利用

求人誌などに使用する印刷用紙に関して、森林資源の持続可能な利用という観点から、FSC 認証紙の使用を推進しています。2018年からは毎週発行される求人誌の印刷用紙はすべてFSC 認証紙とし、その他フリーペーパーなどについても、可能な限りFSC 認証紙を使用しています。

1 2. 環境活動の取組結果の評価結果

(1) 環境目標を達成するための行動内容の評価と次年度の取組

●電気使用量 4.37%増の要因（運用手順徹底）

電気使用量の増加で影響が大きかった拠点は、ジョブキタビル・印刷製本工場となります。引き続きコロナの影響はあったものの、2022年は昨年よりさらに営業活動が改善された。よって、ジョブキタビル内のイベント回数の増加や求人広告売上、求人件数も伸びた。また、雑誌のページ数、印刷部数の増加により、印刷設備の稼働時間が増加したことにより全体で4%強増加しました。

他拠点（事務所）は、増加は4拠点は微増、他の10拠点は微減となった。

（使用拠点～全拠点）

●灯油の使用量 22.09%増の要因（日常管理の実施）

暖房とロードヒーティングのエネルギーとして、北支社と印刷製本工場使用しています。毎年の事ですが、特に1月～3月・12月の使用量が気候や気温、積雪に大きく左右されます。他、印刷製本工場は1回あたりの納入量が多いため納入タイミングによってかなりの影響があります。

（使用拠点～北支社・印刷製本工場）

●重油A使用量 2.33%減の要因

ジョブキタビルの外調機のエネルギーが重油Aを利用している。（購入量で計上）2021年 25,700ℓ・2022年は 25,100ℓとなっており、この外調機は夏場・冬場両方でフル稼働しているため、気候や気温に左右されますが、2022年は昨年並となった。

（使用拠点～ジョブキタビル）

●ガスの使用量 13.13%増の要因（日常管理の実施）

印刷製本工場で印刷設備にガスを使用していますが、電気使用量の要因と同様に印刷設備の稼働時間が増加している事で使用量は13%強増加した。また暖房やロードヒーティングで使用している拠点も気温や降雪量の関係で多少微増している。

（使用拠点～本社・印刷製本工場・旭川営業所・帯広営業所）

●ガソリンの使用量 6.72%減の要因（運用手順徹底）

2022年は2021年と比較すると営業活動の活動量も増加しているものの、昨年同様に内外勤の業務連携等の強化により、内勤の受注状況も増加が要因となっていると考えます。売上増に比例はせず6.72%の減少となった。

（使用拠点～全拠点）

●水の使用量 5.60%減の要因（日常管理の実施）

2021年 3,494m³・2022年 3,298m³とほぼ昨年並みに推移している。

（使用拠点～本社・ジョブキタビル・北支社・南支社・印刷製本工場・旭川営業所
・帯広営業所・恵庭営業所）

●一般廃棄物排出量 0.69%増の要因（日常管理の実施）

2021年 9.367t、2022年 9.432tとなっている。例年並みとなった。

ゴミの分別に関しては、社員のゴミに対する意識は高い状況です。

継続して一般ゴミに対し、しっかりとウオッチし、増加にいたらないようにしていきたいと考えます。

●コピー用紙使用量（購入量）15.32%減の要因

コピー用紙は購入タイミングにも左右されてしまう部分があります。

2022年は2021年に比較し、お客様とのやり取り（求人原稿の確認等）に関して、WEB化への移行もあったように思われます。

今後も可能な範囲でペーパーレスへの動きを行っていきたいと思います。

●2023年も引き続き、全ての環境活動計画を継続して実施していきます。

（2）環境への取組の自己チェックの評価結果

2022年もコロナの影響がありながらの1年だったが、2021年よりも営業活動が改善され、売上等の数字もある程度戻ってきた状況。

また、雑誌（アルキタ）のフリーペーパー化も取り組みました。

営業活動の改善やフリーペーパー化により、雑誌の印刷のページ数・印刷部数を増加させたので、生産部門では印刷機械に使用する電気・ガスが増加。

また毎年のことではあるが、気候に影響も受け増加しているエネルギー

（電気・灯油・重油A・ガス）もありました。しかし今年もそこに大きな問題は無いと考え今後も継続して取り組んでいきます。

1 3. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規等は遵守されていた。また現在までに環境関連法規等の違反や顧客・地域からの訴訟は発生しておりません。

※遵守している主な法規制

（廃棄物の処理及び清掃に関する法律、廃棄物の減量及び処理に関する条例、火災予防条例など）

1 4. 代表者による全体評価と見直しの結果

環境方針は問題ないので改訂なし。
環境経営システムも問題なし。（実施体制含む）
環境目標も問題なし。

エネルギー使用量の増・減に関しては、12、「（2）環境への取組の自己チェックの評価結果」でも書かれているとおりであり、環境マネジメントシステムは問題なく機能しているものと2022年も判断します。

2022年は、2021年より落ち着いてきた新型コロナウイルス禍での営業活動ではあった。2021年と比較すると、さらに改善され、求人広告に対する売上や受注件数も戻りつつありました。

2023年は新型コロナウイルスの5類移行等もあり、新型コロナウイルスは落ち着き、さらに営業活動が好転していく状況になるのではと考えております。その中で、今後も営業活動状況に応じて変動していく各エネルギーをしっかりと管理していきます。